

(令和6年習志野市議会第3回定例会)

発議案第1号

習志野文化ホールのパイプオルガン再設置を求める意見書について

上記の議案を別紙のとおり習志野市議会会議規則第14条第1項の規定により提出します。

令和6年9月13日

習志野市議会議長

佐々木 秀 一 様

提出者	習志野市議会議員	関 根 洋 幸
賛成者	習志野市議会議員	田 中 真太郎
〃	〃	央 重 則
〃	〃	木 村 孝
〃	〃	谷 岡 隆
〃	〃	宮 内 一 夫
〃	〃	大 宮 こうた

習志野文化ホールのパイプオルガン再設置を求める意見書

現在本市においてＪＲ津田沼駅南口再開発事業が進められており、本市の表玄関としてふさわしく、市民に愛されるまちとなるよう取組を行っている。

そのＪＲ津田沼駅南口には習志野文化ホール及びパイプオルガンがあり、長きにわたり音楽のまち習志野の象徴として役割を果たしている。

建設当時、習志野文化ホールのパイプオルガンは、公共ホールとしては日本で初めて設置された大型パイプオルガンであり、現在においても、千葉県内の公共ホールでも唯一のパイプオルガンとしての希少性はもとより、本市の文化芸術の振興に大きく寄与している。

しかしながら、このたびの再建設に当たり、パイプオルガンの設置の可否をクラウドファンディング（以下「ＣＦ」という。）にて決定するとしている。

その背景として、パイプオルガンの移設の際に、約１億５千万円と多額の費用が必要であること、また、設置の可否に対する見解が分かれていることを挙げている。

その結果、財源確保策としてＣＦを実施し、目標額に達しなかった場合は、全額返金の上、パイプオルガンの再設置はしないとしている。

ＣＦの手法自体を否定するものではないが、自治体提案でこれだけの金額規模は例がなく、前段の寄附の状況、市内外への周知方法等を鑑みても、現在のオール・オア・ナッシング方式のＣＦでは、再設置を見込めない。

習志野市の象徴でもあり、市民の財産でもあるパイプオルガンについてＣＦで可否を問い、再設置に係る費用を全額ＣＦで賄うのは疑問であり、本市としても財源を投入し、市民と協働して再設置をすべきである。

よって、本市議会は習志野市長に対し、オール・オア・ナッシング方式のＣＦをオール・イン方式に変更し、寄附を無駄にすることなく、以下の項目のとおりに市費を投入しての再設置を強く求めるものである。

記

- １ パイプオルガンの再設置をすること
- ２ クラウドファンディングをオール・イン方式に変更すること
- ３ パイプオルガンに市民が多く触れ合う機会を創出すること

令和 年 月 日

習志野市議会議長

佐々木 秀 一

提案理由

本案は、習志野市長に対して、標記意見書を提出するものである。

(令和6年習志野市議会第3回定例会)

発議案第2号

政府備蓄米の活用及び安定した営農環境の整備を求める意見書について

上記の議案を別紙のとおり習志野市議会会議規則第14条第1項の規定により提出します。

令和6年9月27日

習志野市議会議長

佐々木 秀 一 様

提出者	習志野市議会議員	入 沢 としゆき
賛成者	習志野市議会議員	谷 岡 隆
〃	〃	央 重 則
〃	〃	木 村 孝
〃	〃	宮 内 一 夫
〃	〃	大 宮 こうた

政府備蓄米の活用及び安定した営農環境の整備を求める意見書

店頭から米が消え、国民が買えない・食べられない事態が全国で起きている。「4店舗回ってようやく買えた」、「違う店で買えたが普段より高い」、「スーパーに米がない」、「米屋も手に入らない」、「お弁当の御飯にすら困っている」。主食の米が在庫不足に陥り、店先から消え、流通業者や消費者に深刻な混乱と不安が広がっている。特に、米の価格の高騰が低所得者・貧困家庭を直撃していることは深刻である。農林水産省（以下「農水省」という。）の発表では、今年6月末の米の民間在庫は前年比41万トン減で、過去最低である。品不足を反映して、米の業者間の取引価格は前年の2倍近くに高騰している。

この要因として農水省は、去年の猛暑による米の出回り量の減少、コロナ後の回復、インバウンドによる需要増などを挙げている。また、南海トラフ地震臨時情報を受けた防災備蓄の増加も拍車をかけているとも指摘されている。ところが農水省は「米の需給が逼迫しているとは考えていない」、「新米が出回れば品薄感は解消される」と繰り返し述べ、国民が期待する政府備蓄米の活用に対しては「民間に在庫はあり、備蓄米の放出が必要な状況ではない」との見解を示している。

政府は「需要に応じた生産」の名で、米の消費が毎年減ることを前提に生産量の削減を進めてきた。米は、気象条件による生産の増減や、社会情勢、経済情勢の変化により需要と供給にギャップが生じる。令和3年産の米はコロナ禍で需要が大幅に減少したため、在庫が生じた。その下で政府は、米が過剰だからと年間20万トン以上の減産を強い、在庫を減らした。この減産が今年の米不足と価格高騰の大きな要因となっている。

よって、本市議会は政府に対し、全ての国民が米を安心して確保できるようにすることは緊急課題であることから、政府備蓄米の活用も含め、店頭に十分な米が回るよう、緊急対策を講じ、併せて、将来にわたって、国が米の需給と価格安定に責任を持ち、米生産者が安定して営農できる価格保障や所得補償などの環境を整備することを強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和 年 月 日

習志野市議会議長

佐々木 秀 一

提案理由

本案は、内閣総理大臣、その他政府関係機関に対して、標記意見書を提出するものである。